

第22回ぐんま演劇人会議 議事録

2022年5月6日(金) 18:30~21:00

前橋市中央公民館和室2

運営担当：ミヤビミカド(劇団 Dice)

参加者

下山明子
田村菜穂
東野善典
五十嵐慎二
桜井香
木田恭平(新日本演劇)
照(劇団 Dice)
加藤真史(演劇/微熱少年)
郡司厚太(a/r/t/s Lab)
ミヤビミカド(劇団 Dice、運営担当)
中村ひろみ(演劇プロデュースとろんぷ・るいゆ、本会世話人)

今日話題にしたいこと

- ・演劇経験者だが、子育て中。活動できるのは土日のみかも。なにが可能？
- ・制作仕事はどんなことすればいい？
- ・ユニット立ち上げたばかりでなにをすればいい？
- ・次々回公演のスタッフ・キャストを募集したい

議題

※コロナ禍での各団体の活動

(対策、妥協点、アイデアや残る課題の共有)

※座席数制限時や、新劇団・若手劇団にとってありがたい『演劇祭(会場費の援助等)』の今後についての情報交換

※個人・団体の上演や活動報告、告知

(フライヤー等お持ちください)

※そのほか

運営担当ミヤビさんから投げかけ

- ・境総合文化センター/境演劇祭(伊勢崎境) 三年程前に無くなった

公演会場費がただだった

- ・そのあとチケットを販売して2回3回公演をしてお金を貯めて劇団の質をあげていこうと思っている立ち上げ間もないユニットには、ありがたいシステムだった
- ・国際交流広場（180席・前橋市）も無くなり、県民会館小ホールも使えなくなり、若い人や新しい人にとって使い勝手のいい小さなスペースが無くなっている、どこにあるかな。
- ・ただ、自分の印象としては群馬の劇団は、自分達でお金を払って演劇をする感覚が強い
- ・集客がんばったり、質を上げるためには、お金を払ってWSで学ぶ等の意識のある人は少ない、やって楽しかったのかという人が多い
- ・無料公演、500円公演はまずいと思う。きちんとチケット料金設定して、スタッフにもお金が払えるようになりたいと思うが、みなさんはどう思うか

世話人・中村から

- ・指摘内容はぐんまの演劇の課題であることに違い無いので、これから考えていかないといけないことだが、たまたま今日は、立ち上げというか、演劇の入り口に立った人たちが多く、この課題について話すのはもう少し先にしましょう。
- ・私自身は30年ぐんまでやってきて、演劇で収入を得てきたので、それは可能ですが、とても努力もしましたし、システムがあるわけではないので、人間関係に左右される部分がとても大きい
- ・みんながみんなそうすべきでもないし、仲間とやさしい気持ちで続けるのもいいし、いろんな演劇、いろんなやり方があるほうが、ぐんまの演劇にとっては幸せだと思う
- ・ただ、たしかにご指摘の課題があるのはほんとうで、意識高くやろうと思うと、壁にぶつかり、やっぱり東京じゃないと演劇はできない、となるのは残念。ぐんまでも東京とは別の価値観の質の高い作品作りはできると思う
- ・もうひとつ大切なのは、評価をしてもらうこと。コンクールに出場することも必要だし、東京から観に来てもらって、ぐんまの芝居おもしろいねと言ってももらうこと、もっとできるようにしないとイケないなと思っている

Q なぜ境町の演劇祭無くなった？

中村 ほんとのことは私も知らないが、私自身は境の演劇祭を立ち上げている。
（群馬県内で演劇祭は成立するのか？というご質問をいただき、十分可能と答え、県内にはこれだけの劇団があって、とても盛ん、こういう劇団を観に行

ってはこのアドバイスにはじまって、第一回から演劇教室講師、演劇祭実行委員を担当。2001年国民文化祭の「子ども向け演劇部門」含め、六年間担当しました。当時は教育委員会直営でした) 私が思うには、合併がらみで、予算を回さなくなった、無駄使いと思われたのではないか。演劇祭に使えるお金が無くなったということ。もともと境町の演劇祭は境町の税金でやっていたこと。なのに、境だけでなく、全県の演劇人にチャンスを与えてくれていた。境町はすごかったと思う。今後、演劇祭を望むなら、クレクレだけではなく、自分達にもなにができるのか、金銭的なことも含め、そこから考えないといけないと思う。

加藤 自分主催する公演は現在チケット代 3,000 円で設定している、それでもペイはできないが。

演劇祭は拠点と質の担保が必要。一つの劇場で順番に上演する演劇祭はお客さんと呼びにくい。何作品かが同時に上演されていて選べることが重要。

人の呼べる演目(プログラムとして)があって、フリンジ公演が集まって…それをぐんまの人たちが担うようなイメージで演劇祭を成立させていくなどの手法が必要。コロナが始まったころ、非公式に自治体に提案はしたが、やる気はなさそうだった。

今回、館林美術館でやる公演は企画を持ち込んで提案した。東毛出身の青年団とニナガワスタジオ出身の俳優が出演するが初共演。話題性など受け入れやすい提案を準備することも重要

拠点にしても多目的ホールばかりで演劇には使いにくい。劇場の使い方を覚えるなど創作と活動の拠点としてのブラックボックス形式の劇場がないのが問題。 ※ホールの担当者が「劇場法」を知らないとか、富良野、八戸、盛岡、富士見、三鷹、調布、水戸、静岡、可児、豊岡、鳥取などアーツマネジメント(言葉は出したような気がしますが)の話もしたかったです

ぐんまの演劇と行政の関わり

- ・コロナで50人定員のところ25人しか集客出来ない→よりお金が残らない
- ・足利ミュージカル 文化庁を味方につけている
- ・人の出会いで、行政は最初援助をしてくれる。でも徐々に自活してね、となって企業協賛を集めたり、へ移行する。
- ・群馬県は文化庁の助成金とつないでくれない。自分で文化庁とつながるしかない
- ・チケットを販売しているだけで営利団体と思われて公民館とか使えないことがある

中村 有料公演＝営利団体ではない

チケット販売してても、全体の収支で利益が出て分配していなければ、営利ではない

ただ公民館は材料費だけでやってほしいという意向は強い。その場合、無理にたたかわないで、やれる場所を探したほうがいい

今日聞きたいこと

- ・演劇経験者だが、子育て中。活動できるのは土日のみかも。なにが可能？
自ら立ち上げる。いきなり公演でなくても、勉強会でもいい。
- ・制作仕事はどんなことすればいい？
- ・ユニット立ち上げたばかりでなにをすればいい？
- ・次々回公演のスタッフ・キャストを募集したい

メンバー募集の方法

温度感に違いがある／大事にしていることにも違いがある

みんな自分のしていることが普通だと思っている

自分に合うかどうかたしかめるのは大事、無理して合わせることはない

募集要項だけでなく実際に公演を観たり稽古場を見学したほうが良い

ユニット側からも活動内容や方向性がわかるポートフォリオ、アーカイブの提出が必要

演劇ユニットの立ち上げ方

制作

人に伝えるにはどうしたらいいか

信頼してもらうには と考える

自分がそこで何をやりたいのか企画書まとめ、収支予算を出す

「企画書」「予算書」「ポートフォリオ」

* 予算書はお小遣い帳程度でもいい

制作仕事は三段階

まっさらな状態からプロジェクトを立ち上げる

決まった方向性に向けて準備をする

当日制作

下記を想定して書類を作ってみる（実際に出すわけではなく仮でいい）

プレスリリース

市町村へ後援依頼（お金をくれるところはほとんどない、名義貸し）

ちゃんとした団体ですよ、あまり儲けてないですよ
企業協賛の場合は「事業計画書」も必要

このあたりの書類や考え方は、今後、演劇祭をどこかに立ち上げてほしいと待つのではなく、自分たちで演劇祭の方向性と必要な経費、社会的な意義等まとめてプレゼンする必要がある

助成金：文化庁（今なら AFF）、経産省、セゾン財団、国際交流基金

注意・企業協賛あると助成金減る場合もある

助成金などの情報がまとまった制作者向けサイトもある

Q 当日制作を頼まれているが、具体的になにをすればいいかわからない

最低限でも

公演概要

館内インフォメーション作成

受付の流れ

当日スケジュール

確認すると、やらなければいけないことも見えてくる

制作はBBQの段取りと同じ

依頼者の代表者も忙しくて、リスト化や伝えることができない可能性高い
ざっくばらんに「なにに困ってますか？」「なにしてほしいですか？」と聞く

1週間に一度とか2週間に一度とか、必ず ZOOM 会議やる

話すこと無いと思っても会議ではじめて気づくことあるので、

定期会議を決めたら必ずやる

団員集め

- ・自分の方向性が決まっていると声をかける人も決まってくるし、誘いやすい
- ・募集チラシを公演に折込んでもらう、内容決める+折り込む公演探す、頼む
- ・よその公演を観に行く
 - ・デート誘うのと同じ ちょっとずつ距離縮めつつ出てほしいオーラ伝える
 - ・ぼくはいきなり「好きだ！」って言います、ぼくもです！
 - ・私の公演を観てるか、WS 参加してるか、私の戯曲読んでる人を応募条件にしている